



「10月以降、需要減少の影響が顕著に出ている」と語るの

は、三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鉱の岩山統社長。

2008年度上期のアンチモン販売量は前年同期を4・6



%上回った。中国企業に生産委託しているOEM製品が、東南アジア向けに販売を伸ばし、4―6月期がとくに好調だった。

しかし、米住宅ローン問題を発端とする世

販売減少抑制 最大の努力を

界景気の減速で、「8、9月から販売は落ち込み始めた」。

三酸化アンチモンは主に樹脂の難燃助剤として自動車、家電、IT関連部品ならびに織

化アンチモンは主産地

維向けなど幅広い産業で使われている。このため米、欧の金融危機で10月以降に世界景気が一段と冷え込んだことから、「すべての産業向けが落ち込んでいく」という。

今後の展開について岩山社長は「しばらく厳しい状況が続く。簡単に需要が戻るとは考えていないが、販売量の減少幅をいかに少なくするかに最大の努力が必要」と表情を引き締める。

一方では金融市場の混乱で1ポンド1190円台に突入した円高が輸出産業の収益を圧迫しているが、原材料のアンチモン地金を輸入している同社にとっては、高止まりする原材料コストの上昇を抑えることができる。

ただし、日本の三酸化アンチモンは主産地

(増)